令和６年５月１日

令和５年度学校関係者評価報告書

学校法人コア学園　飯田コアカレッジ
学校関係者評価委員会

学校法人コア学園 飯田コアカレッジ 学校評価委員会は、 令和 5 年度自己評価報告書に基づいて学校関係者評価委員会を実施し、その結果を以下のとおり報告いたします。

1.　令和 5 年度学校関係者評価委員 （令和 6 年 2 月 24 日現在）

企業等	矢崎 孝弘 氏 株式会社 矢崎製作所 代表取締役 社長
	熊谷 克利 氏 信菱電気株式会社 総務部長
	横前 光正 氏 みなみ信州農業協同組合 総務企画部人事教育 課 課 長
	福澤 栄二 氏 飯田商工会議所 専務理事
	鎌倉　正 氏 飯田市 総務部 総務文書課 課 長
高等学校	有馬 乃 氏 飯田女子高等学校
卒業	上沼 章 氏 みなみ信州農業協同組合 本所金融部
事務局（学校）	牧島　晃 飯田コアカレッジ 校長
	遠山 千尋 飯田コアカレッジ 教頭

2. 自己評価報告について

昨年度とほぼ同様の結果となったが、学校運営全般について透明性が担保された健全かつ適正な運営がなされている一方で、組織として意思決定が機能していない部分があり、今後の健全な運営維持のために課題となっている。今後も健全な運営の継続が求められるが、その実現のために学校法人コア学園の理事会・評議員会によるチェック機能の強化が一層重要であると考える。また、内部においても中長期的な運営方針を明確にし、定例会議時の情報共有の徹底を図るとともに、学生ファーストの姿勢に則った学習環境を維持していくことも重要であると認識している。

教育活動において専門分野における人材育成が改善されていない結果となり、教職員数の確保ならびに質の向上の課題が継続しているのが現状である。学生の満足度を維持するために、「習熟度別授業」「探究学習」を展開し、学生の能力伸長と社会人基礎力の醸成を図っているので、社会人基礎力の向上を図るための即戦力となる教職員の確保は喫緊の課題ではあるが、学生数の減少は財政に直結するため、正規職員の採用について厳しい状況は継続することが懸念される。

カリキュラム内容は、地元の企業の方に委嘱している教育課程編成委員会でご意見を伺いながら改善し、地元企業のニーズに合った科目や学生が関心のある分野の導入に努めているが、「人手ではなく人材を採用したい」という企業のニーズに応えられているかをさらに研究していくことが求められている。

現状の財政面では、学生数の増加により今年度決算および次年度についても黒字を見込んで

いるが、光熱水費や消耗品等の高騰により、引き続きの経費節減に加えて学生数の充足、職員の生活を守る中長期的な財務基盤の安定のために、これからの学校運営についてのあり方を見直す時期になっていると考える。

3. その他意見交換

今年度、大学に編入した学生の今後の進路を把握しておくことが大切であり、学生募集の材料として活路を見出せることになるのではと思う。学力や家庭環境などの背景を把握し、卒業後も学びができる環境を整備していくことが求められている。また、他にも学園の理念の周知方法（周知の必要性）と学生の卒業後の状況を把握することが必要である。また、業務のシステム化を推進してもらうことが重要であり、コア学園グループによるコンサルを実態の伴うものにして欲しいとの意見がありました。

探究学習の取り組みについてチーム内に能力差があると感じる。多くのプログラミング言語を学ぶより、基本となる言語を習得し、専門性の向上を図ることを検討してはどうか。その過程で、課題解決等による達成感を得ることが興味を持って意欲的な学習につながると思う。リスキリング講座は、短期間の実践による技能の習得は即戦力に繋がるため、ニーズがあると思うので導入について検討してはどうかと提案がありました。

人員確保については学校ばかりでなく、企業においても企業継続に係る課題となっており、教員数がどのくらい足りていないのか、仕事の偏りを精査することが必要だと考える。今後、少子化はさらに進行するが、この点も学校と企業にとっても大きな課題となってくる。

過去には、現在の学生数の 3 分の 1 ぐらいであったが、教員数が変わっていないので、指導が行き届いているのか心配なところもあるとの発言があり、少子化による定員の充足率が懸念されるが、これからの学校運営のあり方について、大学への編入制度の確立ならびに企業と連携したリスキリングの開講などのご意見を聴き、中長期的な財政基盤の安定を図るための研究を続けていくことを申し合わせました。

以上